

花園多目的遊水地・貯水池視察＋意見交換ツアー

2020年1月20日



視察工程

大阪大学大学院国際公共施策研究科 視察日程

◎ 日 時：令和 2年 1月20日（月） 14：10～18：00

◎ 出席予定：大阪大学大学院 赤井 伸郎氏ほか ゼミ生 8名

◎ 視察行程

時間	概要	備考
14：10	花園ラグビーミュージアム前 集合【集合場所①】 ↓	※近鉄奈良線「東花園駅」から徒歩 10分
14：20 (30分)	着 ① <u>松原南調節池</u> ・ 総合治水対策、松原南調節池の概要説明 ・ 松原南調節池視察	
14：50	発 ↓	
15：00 (20分)	着 ② <u>花園多目的遊水地</u> ・ 花園多目的遊水地概要説明 ・ 花園多目的遊水地視察（越流堤等）	
15：20	発 ↓ 【現地視察終了後、府庁本館へ】	
16：40	府庁本館 特別会議室（本館地下1階） 集合 【集合場所②】 ↓	※15:43東花園 発→16:20谷町四丁目 着
16：45	③ <u>万博ビジョン策定状況 概要説明</u> ↓	
17：15	④ <u>意見交換</u> ↓	
18：00	解散	

謎の地下神殿の全貌を一挙公開！ 松原南調節池のメカニズム

地盤が硬く水が流れにくい豊川流域の水害から守るため、大府庁では河川を改善するだけでなく、流域調節池や治水緑地等の貯留施設、地下河川等の放流施設などの整備を行う、総合治水対策を進めています。
松原南調節池は、花屋ラグビー場の敷地の地下に建設された流域調節池で、公共下水道が流しきれない雨水を一時的貯留することにより、周辺地域の浸水被害を軽減する施設です。

1 流入ゲート
(2x2m)
ゲートの先には、公共下水道管がつながっています。普段はゲートを閉じておき、いざという時に下水から取水します。また、調節池が満杯になるとゲートを閉めます。

2 調節池内部
(深さ約 21.8m) ※6階建てほどの高さ
調節池内部は、まるで地下神殿。
撮影：小林博樹氏

3 排水ポンプ
(24時間で全量排水)
2台の強力なポンプ(11.5m³/min)で、貯留容量 33,000m³(25mプールで約100杯分)を24時間で排水します。

本体の大きさ 106.6m × 41.6m × 18.7m

寝屋川流域の総合治水対策

寝屋川流域は、その大部分が平地であり、流域の約3/4は雨水が自然に河川に流れ込まない「内水域」であることから、下水道により雨水を集め、ポンプで自動的に河川に排水しています。さらに河川に集められずに雨水の出口は、寝屋川の河口(旧淀川合流点)ただ一か所しかありません。こうした難しい地形条件の中で、寝屋川流域では河川専門だけでなく、下水道事業に加えて、流域住民の皆さんの協力を得ながら対策を行う「総合治水対策」を進めています。
河川事業では「河川改修」のほか、放流施設として「分水路」「地下河川」、貯留施設として「浸水地」「流域調節池」や校庭貯留などの「流域対策」を行っています。下水道事業では、公共下水道から地下河川に流入する「流域下水管」や「増幅幹線」を整備しています。この他流域住民の力にも、開発の雨水貯留・運送施設の整備に協力いただく「流域対策」など、流域全体で治水対策を進めています。

河道改修

川幅を広げたり、流れる洪水の量を増やします。

放流施設

分水路
洪水を分注し、流域外の大河川へ放流します。

地下河川
下水道が押しきれない量の雨水を地下に作った河川で放流します。

貯留施設

浸水地
洪水を河川上流で一時的貯留し、下流の負担を軽減します。平常時は公園や防災緑地等として利用されます。

流域調節池
大雨や下水道が押しきれない量の雨水を、公園や校庭等の地下空の施設で一時的貯留します。

流域対策

大雨の時に、その場で一時的に水をためる施設を公園、校庭や団地の間に作っています。また、民間の開発の際にも、雨水を一時的にためたり、地盤にしみこませたりする施設を作ってもらっています。



調節池・遊水地視察

1. 説明を聞きながら実際に調節池や遊水地の施設見学をさせていただき、異常気象が増える近年において、調節池と遊水地がどれだけ重要な役割を担っているのかを実感することができました。かなりの建設費や維持費がかかっても災害で人命や住居が失われることを考えると必要な支出だと思いました。また調節池の内部が段差違いに設計されていることや、遊水地が普段はスポーツ施設として機能していることなど、興味深い点がいくつもありました。
2. 非常に興味深い視察内容でした。治水や水害対策というと、河川の改修や堤防そのものの強化増築・回収をイメージしてきましたが、今回の視察で、河川や堤防だけでは対応しきれない場合も考えた仕組みにも触れることができ、自分自身の見える世界を広げることができたと感じています。同時に、せっかく多額の予算をかけてあだけの設備を整えたと思うので、水害対策以外の用途（例えば、広い空間を活かしたインテックス大阪のような使い方）も、可能性を信じて模索していければより良いと思いました。
3. 建設時だけでなく、運転、維持管理の面でも、費用を抑える様々な工夫が施されており、とても勉強になりました。一方でそのような工夫を施してもなお、遊水池のような大規模施設の建設、維持管理には多額のコストがかかることや、多額のコストをかけて遊水地を整備しても、百年に一度のような大雨には対応できない場合があることなどを知り、ハードとソフトの両面からの水害対策の必要性を改めて実感しました。
4. 普段は気にも留めないような貯水施設を視察し、説明をお聞きして、大阪の地を水害から守るまさに縁の下の力持ちだと思いました。まだ完成まで数十年かかるとのことでしたが、その状態でもフル活用されていることに驚きました。昨今、水害が頻発しており、今後も地球環境の変化によって水害が増えていくことは十分に考えられます。そのときに、これらの施設をフル活用し、市民の生活の安全が守られることを切に願います。
5. 見えないところで生活が守られていることを知りありがたく感じた。最悪の事態を想定して整備されており、市民としては心強かった。貯水池に効率よく貯めるメカニズムのお話が特に興味深かった。寝屋川水流域という広い範囲で対策していることから、水害対策の規模の大きさを感じた。職員の方々が普段どんなお仕事をされているのかがきになる。

大阪・関西万博の概要と万博ビジョンについて意見交換@大阪府庁

1. 万博と今後の大阪府のビジョンに関する最新の情報についてお話を伺うことができ貴重な機会でした。世間では、万博の内容や跡地活用が話題になることが多いですが、ハード面だけではなく今後は万博というイベントから将来どのような新たな価値観が生まれ、大阪や日本の成長に結びついていくのかについて考えていく必要があると感じました。また今後万博の内容や大阪府の目指すビジョンがより具体化していき、実際に

どのような政策に練りこまれていくのか非常に興味があります。

2. 大阪万博が大阪を世界に発信したり、大阪の将来をより良くしたりするための大きなチャンスであると感じられた一方で、万博をどのように大阪の将来に活かしていくのか具体的には定まっていなかったように感じました。個人的には行政主体である大阪府としては、大阪が他の日本の都市と比べて先進的に直面している課題を、全国に先駆けて、科学技術を用いて少しでも解決し、大阪モデルとして発信するようなことができれば良いのではないかと思います。
3. こちらも、旬の話題である大阪万博を題材に実務担当者の方と交流を行うことができ、非常に有意義な時間でした。実際に府庁の方の気持ちに触れて、万博開催の大きさ・重要性を再確認することができました。ただ、それだけ重要だからこそ、もう少し深い議論が現時点でもできれば良かったかなと感じています。「詳細はまだ決まっていない（決められない）」という状況にももちろん理解はできますが、その中でも考えられることや考えるべきことを深めていければ、より良い万博を、より良い大阪を作っていけると感じました。
4. 5年後に開催される大阪万博に向けて、またそれを踏まえた大阪の未来に向けて策定されたビジョンをお聞きしてとてもワクワクしました。一方で、人口減少や少子高齢化、環境問題などの社会課題をどう組み込んで、どう変化していくのかという点において不安を覚えました。大阪だけが減りゆく若者を確保して周辺都市が衰退してしまいうのではなく、日本全体で、地球全体で幸せを共有できる未来が来てほしいと思います。
5. 万博の中身についてはあまり報道されることはないのですが、「いのち輝く未来社会のデザイン」と言われても何のことかわからなかったが、職員の方の説明を受けて深く知ることができた。また、大阪府が万博のテーマに応じたことを万博よりも先に政策として実行しようとしていることにも驚いた。しかし、5年後に迫ってもあまり内容が決まっていなかったのは少し、まずいのではないかと感じた。
6. わくわくする大阪を作りたいというビジョンがとても大阪らしい。せっかく大阪府はCO₂の排出を2050年までに実質0にするという目標を立てているのだから、環境面への配慮をもう少し組み込んでほしいと個人的には思った。また、ジェンダー平等に関するビジョンもあれば良いなど、男性職員ばかりの会議室を見て感じた。